

第 72 回 幹 事 会

平成 2 1 年 2 月 2 6 日

日 本 学 術 会 議

第72回幹事会議事次第

日時：平成21年2月26日（木） 14：00

- | | | |
|-----------|------|---------------------------------------|
| I 非公開審議事項 | 提案1 | 機能別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 |
| 1 委員会関係 | 提案2 | 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 |
| | 提案3 | 課題別委員会分科会の委員の決定 |
| 2 その他 | 提案4 | 提言等の決定 |
| II 審議事項 | 提案5 | 補欠の会員候補者を推薦する部の決定 |
| 1 選考関係 | | |
| 2 出版物発行関係 | 提案6 | 『知のタペストリー』シリーズの出版計画：報告と提案 |
| | | |
| 3 団体の指定 | 提案7 | 日本学術会議協力学術研究団体の指定 |
| | | |
| 4 国際会議関係 | 提案8 | G8学術会議への会員の派遣 |
| | 提案9 | 平成23年度開催国際会議の共同主催候補 |
| 5 シンポジウム等 | 提案10 | 公開シンポジウム「タバコの煙は愛する人を傷つける」 |
| | 提案11 | 生体医工学フォーラム「スーパー特区で加速する最先端医療技術」 |
| | 提案12 | シンポジウム「遺棄および老朽化学兵器の爆発リスク及び爆破処理技術の安全性」 |
| | 提案13 | 公開シンポジウム「福祉職・介護職の専門性と社会的地位を高めるために」 |
| | 提案14 | IGBP(地球圏－生物圏国際協同研究計画)学術講演会 |
| | 提案15 | 第23回環境工学連合講演会 |
| | 提案16 | 第55回構造工学シンポジウム |
| | 提案17 | シンポジウム「ユビキタス空間情報社会基盤の構築」 |
| 6 後援 | 提案18 | 国内会議 |

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 審議付託等	1
3 委員会委員の辞任	1
第 2 各部・各委員会報告	
1 部会の開催とその議題	2
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3 機能別委員会の開催とその議題	3
4 分野別委員会の開催とその議題	4
5 サポートレターの発出	11
6 課題別委員会の開催とその議題	15
7 記録	15
8 サイエンスカフェの開催	15
9 総合科学技術会議報告	15
10 慶弔	17

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
1 月 22 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
1 月 29 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
	日本学術会議北海道地区会議 市民公開講演会	唐木副会長
1 月 30 日 (金)	日本学術会議九州・沖縄地区会議 科学者懇談会及び学術講演会	鈴木副会長
2 月 4 日 (水)	日本学術会議に関する国会議員懇話会	四役、竹林局長、綱木次長
2 月 5 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
2 月 12 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
2 月 20 日 (金)	総合科学技術会議本会議	金澤会長、綱木次長
2 月 26 日 (木)	表敬／モンゴリアンアカデミー副会長 アルタンスクフ・ノロヴ氏	四役

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
日本土壌微生物学会シンポジウムの後援	日本土壌微生物学会長	第二部
こども環境学会 2009 大会 (千葉) 『こどもの力』の後援	こども環境学会長	各部
第 7 回帝京ハーバードシンポジウムの後援	第 7 回帝京ハーバードシンポジウム実行委員会長	第二部
井上春成賞受賞候補者の推薦 (照会)	井上春成賞委員会委員長	各部
本田賞受賞候補者の推薦 (照会)	本田財団理事長	各部
京都大学数理解析研究所運営委員会及び専門委員会委員候補者の推薦	京都大学数理解析研究所長	数理科学委員会 物理学委員会 総合工学委員会 情報学委員会

3 委員会委員の辞任

○史学委員会および史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会

君島 和彦 (平成 21 年 1 月 16 日付)

○心理学・教育学委員会心の先端研究と心理学専門教育分科会

辻 敬一郎（平成21年1月28日付）
○薬学委員会化学・物理系薬学分科会 山田 陽城（平成21年2月23日付）
○化学委員会化学企画分科会 村井 眞二 大橋 裕二（平成21年1月23日付け）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

（1）第三部拡大役員会（第4回）（1月23日）

- ①夏部会について ②日本工学アカデミー（E A J）との懇談会
- ③今後の新分科会設置について ④数物系教育の強化について
- ⑤学協会との連携のあり方について ⑥その他

（2）第二部会（第2回）（2月5日）

- ①公開シンポジウム「生命を守る医と食の安全、安心のために」について
- ②（学術会議全体の）課題別委員会について ③日本の展望委員会について
- ④夏季部会について ⑤補欠の会員候補者の推薦について ⑥その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

（1）日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会（第4回）（2月4日）

- ①今後の進め方（日本の展望委員会からの報告）
- ②データと調査に関する意見交換
- ③中間報告・「第4期計画」への提言事項のとりまとめ方針と分担
- ④今後の予定 ⑤その他

（2）日本の展望委員会 個人と国家分科会（第4回）（2月6日）

- ①話題提供
 - 1) 水田祥代委員
 - 2) 油井大三郎委員

（3）日本の展望委員会 人文・社会科学作業分科会（第3回）（2月6日）

- ①日本の展望委員会からの報告 ②今後の進め方について
- ③独自の課題について ④次回日程

（4）日本の展望委員会 理学・工学作業分科会（第4回）（2月6日）

- ①各分野別委員会からの報告
（「全体展望：審議の経過および検討の論点の整理」、及び「緊急及び重要課題の

抽出」のとりまとめ状況及び今後の考え（取り組み）等について）
②共通課題について ③今後の進め方 ④その他

（５）日本の展望委員会 大学と人材分科会（第３回）（２月９日）

- ①報告（日本の展望委員会、分科会の新委員）
- ②話題提供
 - １）文科省高等教育局（法人化等について） ＊文部科学省戸谷審議官
 - ２）法人化後の大学状況、総合科学技術会議での審議状況 ＊郷副委員長
 - ３）学士力委員会での審議状況 ＊北原委員
- ③論点整理
 - １）アンケート結果
 - ２）話題提供（青柳委員）
- ④その他

（６）日本の展望委員会 情報社会分科会（第４回）（２月１８日）

- ①分科会報告書案について ②審議の経過および検討の論点の整理について
- ③第４期科学技術基本計画に盛り込むべき事項について ④その他

（７）日本の展望委員会 個人と国家分科会（第５回）（２月２０日）

- ①話題提供
 - １）濱田政則委員
 - ２）長谷川真理子委員

（８）日本の展望委員会 安全とリスク分科会（第３回）（２月２３日）

- ①各部からの意見報告 ②その他

３ 機能別委員会の開催とその議題

（１）科学と社会委員会（第３回）（１月２６日）

- ①「知のタペストリーシリーズ」（旧 「誕生シリーズ」）について
- ②対外的な提言等のフォローアップの在り方 ③その他

（２）科学と社会委員会 科学力増進分科会（第３回）（１月２８日）

- ①サイエンスアゴラの結果報告 ②サイエンスカフェについて
- ③リテラシー小委員会について ④その他

（３）科学者委員会（第８回）（２月２３日持ち回り開催）

- ①日本学術会議協力学術研究団体の指定（各部回答分）②日本学術会議協力学術研究団体の指定（子どもと自然学会）③学協会の機能強化方策検討等分科会小委員会の設置

- (4) 科学者委員会広報分科会 (第3回) (2月12日)
①『学術の動向』への編集協力について②日本学術会議パンフレットについて③その他
- (5) 科学者委員会 学術体制分科会 (第1回) (2月19日)
① 委員長、副委員長及び幹事の選出 ②今後の進め方について ③その他
- (6) 国際委員会 (第3回) (2月24日)
①平成21年度代表派遣 (実施計画) について②加入国際学術団体について③平成23年度共同主催国際会議候補について④持続可能な科学と技術に関する国際会議2009について⑤G8学術会議・IAC理事会・IAP執行委員会について⑥その他
- (7) 国際委員会G8学術会議分科会 (第1回) (1月30日)
①委員長の指名②G8学術会議共同声明テーマ (エネルギー問題) について③G8学術会議共同声明テーマ (移民問題) について④その他
- (8) 国際委員会アジア学術会議分科会 (第21期・第1回) (2月23日)
①委員長の選出②アジア学術会議 (Science Council of Asia: SCA) について③第9回アジア学術会議について④新体制検討委員会について⑤ウブントゥ (BUNTU) 連合について⑥その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) 地域研究委員会 地域研究展望分科会 (第2回) (1月22日)
①地域概念の整理
② ①国際理解、②多文化共生 ③地域多様性、④地域づくり・地域政策、
⑤紛争解決・災害救援、⑥持続可能な発展と文化の多様性、の6課題に
対して各分野の貢献のあり方
③その他
- (2) 第一部拡大役員会 (第3回) および第一部分野別委員会合同
人文社会科学と学術分科会 (第1回) (1月22日)
①幹事会からの報告
②各委員会からの報告
1) 機能別委員会 (科学者、科学と社会、国際)
2) 日本の展望委員会
③分野別委員会からの報告
④課題別委員会の第一部からの提案について

- ⑤夏季部会の設営・企画について
- ⑥第一部ニューズレター第2号の刊行について
- ⑦人文社会科学と学術分科会からの間第提起と検討
- ⑧その他

- (3) 言語・文学委員会 日本の展望言語・文学分科会 (第3回) (1月23日)
- ①報告書のテーマについて ②その他

- (4) 第一部関連分野別委員会合同 AASSREC・IFSSO分科会
(第2回) (1月23日)
- ①AASSREC・IFSSO分科会委員の補充について (広渡先生)
 - ②出版関係について編集委員長からの報告 (伊藤先生)
 - ③AASSRECの現状と問題点および2009年総会について (小谷先生)
 - 1) 総会準備シンポジウムの内容、日時、場所の決定
 - ④IFSSOの現状と問題点および2009年総会について (小松先生)
 - ⑤その他 ⑥次回分科会日程

- (5) 法学委員会 法史学・歴史法社会学分科会 (第1回) (1月26日)
- ①委員の決定 (委員長、副委員長、幹事) の決定
 - ②本期の活動計画について (自由討論) ③その他

- (6) 言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
アジア研究・対アジア関係に関する分科会 (第2回) (1月29日)
- ①「日本の展望」分野別委員会報告の論点について ②その他

- (7) 史学委員会 日本の展望史学分科会 (第1回) (2月2日)
- ①役員の選出 ②報告書のテーマについて ③その他

- (8) 哲学委員会 日本の展望哲学分科会 (第2回) (2月10日)
- ①報告書のテーマについて ②アンケート調査の内容について

- (9) 社会学委員会 福祉職・介護職育成分科会 (第2回) (2月12日)
- ①シンポジウムの打合せ ②その他

- (10) 政治学委員会 政治学展望分科会 (第2回) (2月14日)
- ①中間報告の作成について ②その他

- (11) 心理学・教育学委員会 心の先端研究と心理学専門教育分科会
(第1回) (2月21日)

- ①役員の選出 ②第20期分科会の活動報告と提言文案について
- ③第21期分科会の活動について

(12) **地域研究委員会 多文化共生分科会** (第2回) (2月22日)

- ①多文化共生について問題として取り上げるべきと考える事項について
(各自10分程度発言) ②その他

(13) **経営学委員会 会計学分科会** (第2回) (2月23日)

- ①第1回討議内容にて決定した方針の確認
- ②第1回決定事項に関わる作業分担の明確化
- ③作業工程の(スケジュール)の確認
- ④その他

(14) **経済学委員会 現代経済政策史資料適正保存促進分科会**

(第1回) (2月23日)

- ①役員の選定 ②今後の活動方針について ③その他

(15) **法学委員会 ファミリー・バイオレンス分科会** (第1回) (2月24日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事1～2名)の選出
- ②報告: 後藤弘子委員「スウェーデンの女性に対する暴力対策法制」
- ③第21期の活動方針の確認 ④その他

第二部担当

(1) **農学委員会・食料科学委員会合同 CIGR分科会** (第1回) (1月24日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の推進方針
- ③2011年国際シンポジウムの検討 ④その他

(2) **歯学委員会** (第2回) (1月26日)

- ①今後の活動について ②その他

(3) **歯学委員会 臨床系歯学分科会** (第1回) (1月26日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動について ③その他

(4) **農学委員会 農学分科会** (第1回) (1月27日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②「日本の展望」について ③その他

(5) **基礎医学委員会 病原体学分科会** (第1回) (1月28日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の活動方針の決定 ③その他

(6) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学委員会合同

総合微生物科学分科会 (第1回) (1月28日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の活動方針の決定 ③その他

(7) 健康・生活科学委員会 (第4回) (1月30日)

- ①日本の展望委員会「生命科学作業分科会」への提言について ②その他

(8) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・
薬学委員会・情報学委員会合同 バイオインフォマティクス分科会

(第1回) (1月30日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第20期からの引継ぎ事項の確認
③第21期の活動計画 ④その他

(9) 農学委員会 農業経済学分科会 (第1回) (2月1日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②21期の分科会活動について ③その他

(10) 食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同

新興・再興感染症分科会 (第1回) (2月4日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第21期の活動方針の決定 ③その他

(11) 健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会 (第1回) (2月5日)

- ①委員長、副委員長及び幹事の選出について ②今後の活動について
③その他

(12) 臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会 (第1回) (2月6日)

- ①委員長、副委員長、幹事(2名以内)の選出 ②今後の活動について
③その他

(13) 応用生物学委員会 (第2回) (2月9日)

- ①「日本の展望」について ②その他

(14) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、
環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会

(第2回) (2月13日)

- ①提言について ②小委員会について ③その他

(15) 臨床医学委員会 脳とこころ分科会 (第1回) (2月13日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の活動について ③その他

(16) 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会

(第1回) (2月13日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出
- ②20期の分科会の経過報告と21期への宿題
- ③21期の今後の活動方針・計画 ④「日本の展望」についての報告
- ⑤その他

(17) 農学委員会 P S A分科会 (第1回) (2月18日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出について
- ②「11th Pacific Science
Inter-congress」について ③その他

(18) 農学委員会 風送大気物質問題分科会 (第2回) (2月20日)

- ①風送大気汚染物質問題の今後の推進方針 ②第2回シンポジウム案の検討
- ③その他

(19) 基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会 (第1回) (2月20日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動について ③その他

(20) 薬学委員会 化学・物理系薬学分科会 (第1回) (2月23日)

- ①分科会委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の活動について ③その他

(21) 臨床医学委員会 感覚器分科会 (第1回) (2月24日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出について ②第21期の活動方針について
- ③その他

(22) 健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会 (第2回) (2月25日)

- ①提言について
- ②今後の予定
- 1) 関係省庁等 2) 関連学会等 3) その他
- ③その他

第三部担当

(1) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同

放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会 (第2回) (1月22日)

- ①京都大学放射線生物研究センターが共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて ②その他

(2) 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会 (第1回) (1月23日)

- ①自己紹介 ②役員の選出 ③分科会の課題 ④今後の活動方針

⑤次回の予定 ⑥その他

(3) 地球惑星科学委員会 INQUA分科会 (第1回) (1月26日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の活動について ③その他

(4) 物理学委員会 (第2回) (1月27日)

①日本の展望について ②その他

(5) 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会 (第1回) (1月27日)

①役員の選出 ②今期の活動方針について ③その他

(6) 土木工学・建築学委員会 低炭素建築・都市分科会 (第1回)、
同委員会 社会資本分科会 (第1回) 合同分科会 (1月30日)

①役員の選出 ②今期の活動について ③その他

(7) 機械工学委員会 機械工学企画分科会 (第2回) (1月30日)

①「日本の展望」について ②新規分科会、機械工学委員会の活動について
③その他

(8) 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 WFEО分科会
(第2回) (2月2日)

①平成21年度代表派遣会議及び派遣候補者について ②その他

(9) 材料工学委員会拡大役員会 (第1回)・

同委員会 材料工学将来展望分科会 (第1回) 合同会議 (2月3日)

①役員の選出 ②日本の展望について ③その他

(10) 材料工学委員会 材料構造化コンバージング・テクノロジー分科会
(第1回) (2月3日)

①役員の選出 ②分科会構成の確認

③1)「我が国における科学技術に裏づけされたものづくり技術分野の状況とあり方」 塩谷景一 (大阪大学大学院工学研究科招聘教授、兼文部科学省科学技術政策研究所 研究官)

2)「我が国の材料研究の材料論文の国際的水準と材料研究の評価指標について (仮題)」 桑原輝隆 (文部科学省 科学技術政策研究所 総務研究官)

④分科会の進め方の方針について ⑤その他

(11) 総合工学委員会・材料工学委員会合同 持続可能なグローバル資源利活用に
係る検討分科会 (第1回) (2月3日) *メール審議

- ①分科会設置と委員名簿の確認 ②委員長等の選出
- ③分科会の活動方針と計画について ④小委員会の設置について

(12) 化学委員会 有機化学分科会 (第1回) (2月7日)

- ①委員長等役員の選出 ②第21期の活動について ③その他

(13) 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 (第1回) (2月9日)

- ①役員の選出 ②今期の活動について ③その他

(14) 総合工学委員会 巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会
(第2回) (2月9日)

- ①第21期分科会の今後の進め方 ②日本の展望について ③その他

(15) 土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会 (第1回) (2月12日)

- ①役員の選出 ②前期の活動報告 ③今期の活動方針 ④その他

(16) 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会 (第1回) (2月12日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②第20期提言の概要報告
- ③委員の追加について ④第21期の分科会活動方針 ⑤その他

(17) 土木工学・建築学委員会 拡大役員会 (第2回) (2月13日)

- ①今期活動方針の確認 ②各分科会の構成と活動状況報告
- ③「日本の展望」とりまとめに向けて ④全体会議(3月6日開催)の進め方
- ⑤平成21年度日本学術会議主催公開講演会(第1、2回)の企画案について(依頼) ⑥その他

(18) 化学委員会 高分子化学分科会 (第1回) (2月18日)

- ①委員長等役員の選出について ②今後の活動方針について ③その他

(19) 地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会 (第3回) (2月19日)

- ①各分科会報告 ②地球惑星科学連合からの報告
- ③今後の予定と活動について ④その他

(20) 化学委員会 分析化学分科会 (第1回) (2月23日)

- ①委員長等役員の選出 ②委員の追加について ③第21期の活動について
- ④その他

(21) 環境学委員会 自然環境保全再生分科会 (第2回) (2月26日)

- ①「COP10に向けた取り組みについて:環境省自然環境局からのヒアリング」
- ②その他

5 サポートレターの発出

京都大学原子炉実験所
所長 代 谷 誠 治 殿

日本学術会議総合工学委員会委員長 矢川元基

貴機関が共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、

平素より、科学に関する研究に真摯なご尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、今般、貴機関が、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことに関して、学術会議に対してご要望書をいただきました。

顧みるに、貴機関は、日本学術会議が昭和 37 年に出した勧告「関西研究用原子炉を中心とする実験所について」を受けて設立されたものです。このため、我々もその経緯を重く受け止めて、貴機関の今後の基本的な在り方に大きな影響を与える今回の申請について、我々の考えを明らかにすることと致しました。

周知の通り、貴機関は、長らく原子力科学に関する研究について、「原子炉による実験及びこれに関する研究」を行うことを目的に京都大学附置研究所として設置された当初から、全国大学共同利用研究所として本会議推薦の委員を含む運営委員会を設けて機関の運営を行いつつ、一貫して核エネルギーの利用と中性子を中心とした粒子線・放射線の利用に関する幅広い分野に跨る研究を車の両輪として推進され、研究のみならず教育の面でも先進的な成果を挙げて、大変重要な役割を果たしてきました。

近年、貴機関は、がんのホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の高度化と適応症例の拡大、中性子光学素子である中性子反射鏡の高性能化と応用機器の開発、原子炉と加速器の技術の発展に依拠した加速器駆動未臨界炉の開発研究等々において、世界を先導する成果を挙げておられます。また、昭和 46 年に日本学術会議が出した勧告「大学関係原子力将来計画について」に基づいて竣工した臨界集合体実験装置(KUCA)においては、原子力専攻学生・院生を対象とする炉物理実験教育が国内 12 大学、国外 7 大学の参加を得るまでに発展し、国内外の原子力人材育成に貢献されています。これらは特筆に値するものと考えます。

さらに、今回、貴機関がおまとめになられた申請書に示されている構想は、従来の実績に基づき、機関全体として共同利用・共同研究をさらに発展させようとするものであり、今後の複合的な原子力科学研究の一層の振興に大きく寄与するものと考えます。

以上のことから、貴機関が、今般、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、賛同の意を示すものであります。

(用紙)

平成 21 年 2 月 12 日

東京大学物性研究所
所長 家 泰弘 殿

日本学術会議・物理学委員会委員長 永宮 正治



貴機関が共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、

平素より、科学に関する研究に真摯なご尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、今般、貴機関が、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことに関して、学術会議に対してご要望書をいただきました。

顧みるに、貴機関は、日本学術会議が昭和 31 年に出した要望「物性物理学研究所（仮称）の設置について」を受けて設立されたものです。このため、我々もその経緯を重く受け止めて、貴機関の今後の基本的な在り方に大きな影響を与える今回の申請について、我々の考えを明らかにすることと致しました。

周知の通り、貴機関は、長らく物性物理学に関する研究について、全国的な共同利用研究所として大変重要な役割を果たしてきました。そのための物性委員会を設立し、研究方針を定め、また、広く全国より研究者を公募し、共同利用機関をとして模範的な運営を進めてこられました。

また、今回、貴機関がおまとめになられた申請書に示されている構想は、今後の物性物理学研究の一層の振興に大きく寄与するものと考えます。

以上のことから、貴機関が、今般、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、賛同の意を示すものであります。

(別紙)

平成 21 年 2 月 12 日

大阪大学核物理研究センター
センター長 岸本 忠史 殿

日本学術会議・物理学委員会委員長 永宮 正治



貴機関が共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、

平素より、科学に関する研究に真摯なご尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、今般、貴機関が、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことに関して、学術会議に対してご要望書をいただきました。

認みるに、貴機関は、日本学術会議が昭和 37 年に出した勧告「原子核研究将来計画の実現について」等を受けて設立されたものです。このため、我々もその経緯を重く受け止めて、貴機関の今後の基本的な在り方に大きな影響を与える今回の申請について、我々の考えを明らかにすることと致しました。

周知の通り、貴機関は、長らく原子核物理学に関する研究について、全国的な共同利用センターとして大変重要な役割を果たしてきました。そのための運営委員会を設立し、研究方針を定め、また、広く全国より研究者を公募し、共同利用機関をとして模範的な運営を進めてこられました。

また、今回、貴機関がおまとめになられた申請書に示されている構想は、今後の原子核物理学研究の一層の振興に大きく寄与するものと考えます。

以上のことから、貴機関が、今般、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、賛同の意を示すものであります。

平成21年2月6日

京都大学霊長類研究所
所長 松沢 哲郎 殿

日本学術会議社会科学委員会委員長 直井 優 

同 基礎生物学委員会委員長 黒岩 常洋 

同 応用生物学委員会委員長 鷲谷 いつみ 

同 基礎医学委員会委員長 中村 祐輔 

貴機関が共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて

平素より、科学に関する研究に真摯なご尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、今般、貴機関が、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことに関して、学術会議に對してご要望書をいただきました。

顧みるに、貴機関は、日本学術会議が昭和39年に出した勸告「霊長類研究所（仮称）の設立について」を受けて設立されたものです。このため、我々もその経緯を重く受け止めて、貴機関の今後の基本的な在り方に大きな影響を与える今回の申請について、我々の考えを明らかにすることと致しました。

同知の通り、貴機関は、長らく霊長類学に関する総合的な研究拠点として大変重要な役割を果たしてきました。とくに国内外の研究所・研究施設との霊長類を用いた共同研究、および国際共同研究と海外留学生の受入など、共同利用・共同研究拠点としての実質を重ねてきました。

また、今回、貴機関がおまとめになられた申請書に示されている構想は、霊長類の進化と、ヒト化（ホミニゼーション）のプロセスを解明するとともに、わが国で数少ない文系・理系の研究者を融合する研究拠点として、国内外の研究コミュニティと緊密に連携し、今後の霊長類学の一層の振興に大きく寄与するものと考えます。

以上のことから、貴機関が、今般、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けるための申請を行うことについて、賛同の意を示すものであります。

6 課題別委員会の開催とその議題

(1) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会拡大役員会(第4回)(2月3日)

①QAA(Quality Assurance Agency for Higher Education)に関する調査について ②その他

7 記録

文書番号				委員会等名	標題
作成日	委員会No	受付No			
SCJ第20期-210116-20360500-008				地域研究委員会人文・経済地理と地域教育(地理教育を含む)分科会	シンポジウム(2008年8月5日)「人口減少社会を地域の文脈で考える―地域イノベーションの可能性―」の記録

8 サイエンスカフェの開催

(1) 1月23日(金) 19:00~20:30

場 所: 文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ: 宇宙は無数にあるのか?: 宇宙の創生、マルチバースと人間原理

講 師: 佐藤 勝彦(東京大学大学院理学系研究科教授

日本学術会議第三部会員)

毛利 衛(日本科学未来館 館長 日本学術会議第三部会員)

(2) 2月12日(木) 18:30~20:00

場 所: 東京大学総合文化研究科・教養学部コミュニケーションプラザ

南館3F交流ラウンジ

テーマ: チャールズ・ダーウィン、200年目の誕生日会

講 師: 長谷川 眞理子(総合研究大学院大学教授 学術会議連携会員)

三中 信宏(農業環境技術研究所上席研究員 ML_EVOLVE主宰)

9 総合科学技術会議報告

1. 本会議

(第79回)

2月20日

(1) 平成21年度科学技術関係予算案の概要

(2) 「環境エネルギー技術革新計画」の戦略的推進について

(3) 2009年の科学技術政策の重要課題について

(4) 意見交換(高齢者・障害者の自立支援に役立つロボット技術開発・実用化促進に向けた取組み)

・山海教授より、自立支援ロボットの現状と今後の課題について説明・総理による実演(デモ)

・総理発言

- ・論点（自立支援ロボットの実用化促進に際しての政策課題等）について意見交換

2. 専門調査会

- 評価専門調査会（第78回） 1月19日
 - （1）平成20年度における国家的に重要な研究開発の事前評価について（報告）
【課題1】
 - （2）総合科学技術会議が事前評価を実施した研究開発の事後評価の実施について
【課題2】
 - （3）総合科学技術会議が事前評価を実施した国家的に重要な研究開発「イネゲノム機能解析研究」（農林水産省）の事後評価について【課題3】
 - （4）その他
- 分野別推進総合PT 社会基盤PT 第6回 1月23日
 - （1）今後の社会基盤分野における中間フォローアップの進め方
 - （2）重点的に議論すべき事項について（話題提供）
 - ①集中豪雨の頻発・激化への対応（国土交通省 気象庁）
 - ②犯罪防止・捜査支援のための研究開発の強化（警察庁 科学警察研究所）
- 総合科学技術会議 知的財産戦略専門調査会（第41回） 1月23日
 - （1）今後の進め方について
 - （2）知的財産戦略について
- 分野別推進総合PT フロンティアPT（第7回）（1月26日）
 - （1）海洋地球観測探査システム（資源開発の観点から）について
（有識者からの意見聴取）阿部一郎 住友金属鉱山株式会社 取締役
専務執行役員 「海底熱水鉱床開発における課題 非鉄資源開発の観点からの意見」
 - （2）技術人材の育成について
 - （3）その他
- 総合科学技術会議 基本政策推進専門調査会 分野別推進戦略総合PT
ライフサイエンスPT第12回 1月30日
 - （1）平成21年度ライフサイエンス関係予算案について（報告）
 - （2）連携施策群「食料・生物生産研究」の第一次取りまとめについて
 - （3）第3期中間計画の中間フォローアップについて
- 生命倫理専門調査会（第53回） 2月3日
 - （1）諮問第7号「特定胚の取扱いに関する指針の改正について」及び

諮問第8号「ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針の改正について」
(2) その他

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- | | | |
|---|-------|---------|
| ・ | 1月22日 | *会長出席 |
| ・ | 1月29日 | *会長出席 |
| ・ | 2月5日 | *会長出席 |
| ・ | 2月12日 | *会長出席 |
| ・ | 2月19日 | *会長欠席 |
| ・ | 2月26日 | *会長出席予定 |

10 慶弔

○ご逝去

田野 保雄（たのやすお）60歳 1月31日 第20期、21期第二部会員、大阪大学大学院医学系研究科眼科学教授

御船 美智子（みふねみちこ）55歳 2月11日 第20、21期連携会員、お茶の水女子大学院教授

神谷 不二（かみやふじ）82歳 2月20日 第16期、18期第二部会員、慶応義塾大学名誉教授

5	
幹事会	7 2

提 案

補欠の会員候補者を推薦する部の決定について

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 標記について、決定すること。
- 3 提案理由 会員の死亡に伴い、補欠の会員を選考するために、候補者を推薦する部を決定する必要があるため。

(参考)

●補欠の会員の選考手続について（平成 18 年 6 月 22 日第 18 回幹事会申合せ）

1. 幹事会は、前任者の専門分野等を考慮して補欠の会員の候補者（以下「候補者」という。）の推薦を依頼する部を決定する。
2. 会長は、幹事会の決定を受けて当該部に対し、候補者の推薦を依頼する。

6	
幹事会	7 2

提 案

『知のタペストリー』シリーズの出版計画：報告と提案

- 1 提案者 科学と社会委員会委員長
- 2 議 案 標記について別紙のとおりとすること。
- 3 提案理由 『知のタペストリー』シリーズの出版に向けて具体的な企画・編集・出版活動を開始しつつ、本年４月の総会で具体的な報告をしたいと考えているため。

記

『知のタペストリー』シリーズの出版計画：報告と提案

2009 年 2 月 26 日

科学と社会委員会 鈴木興太郎

1. はじめに

科学と社会委員会は、第 20 期と第 21 期の活動を通して、若い世代がアクセス可能な水準で学術と科学・技術への知的興味を喚起する情報提供を目指して、編集・出版の企画を練り上げてきた。鷺谷会員、上野会員、岡部会員によって構成されたワーキング・グループが作成された原案に沿って、科学と社会委員会のレベルでは細部に到るまで成案を得たので、四役会議の検討を経て、幹事会に対して提案することにした。幹事会で了承が得られれば、早急に実現に向けて具体的な企画・編集・出版活動を開始しつつ、本年 4 月の総会で具体的な報告をしたいと考えている。

2. 提案内容

(1) 『知のタペストリー』シリーズのコンセプト

主として中高生を念頭に置き、学術、科学および技術に関する高い水準の知見を平易な表現で提供して、若い世代の知的好奇心を喚起するとともに、学術的・科学的な素養を醸成することに寄与したい。現在の人々の読書傾向として、中高生を主要なターゲットとして書かれた書物であっても、アクセスが容易な表現で書かれた学術、科学および技術に関する信頼性の高い情報であれば、実際にはその想定読者層を越えて、大学の教養課程の学生および一般社会人にも浸透力を持っているといわれている。その意味で、このシリーズは広く社会の人々の学術、科学および技術に関するリテラシーを改善するための新生学術会議の努力の一環であるといえることができる。

このシリーズを名付けて『知のタペストリー』シリーズと称する理由は、この企画が 2 つのサブ・シリーズを有機的に織り込んで、想定読者層の知的関心に幅広く応えけるとともに、なかなか気付きにくい新たな視点に読者の眼を開きたいという期待に根差している。第 1 のサブ・シリーズは、主として単独の専門的研究者が特定の主題に関して現代の学術的知見のフロンティアを俯瞰的

に踏まえつつ、深く掘り下げた平易な記述によって、その主題に読者を誘う試みを行う書物から構成される《縦糸シリーズ》である。第2のサブ・シリーズは、専門領域を異にする複数の研究者が、ある共通のキーワードを様々な視角から取り扱って、領域横断的な知的関心のスペクトラムを読者の眼前に展開してみせ、新たな驚きや知的好奇心を惹起することを目指す《横糸シリーズ》である。キーワードの例としては、デザイン、時間、空間、知能、リスク、老い、疲労、夢、争い、心理、善、パワーなど、科学と社会委員会で俎上に載せられただけでも数多い。ここで特筆すべきは、キーワードを共有する領域横断的な執筆者層は、人文学、社会科学、生命科学、医学、理学、工学を包括するものとして構想される点である。

縦糸シリーズにせよ、横糸シリーズにせよ、このような書物を広領域にわたり、高い信頼性を保証して提供できるのは、人文学、社会科学、生命科学、医学、理学、工学という学術・科学・技術の全スペクトラムを高いレベルで包括する日本学術会議であればこそだと考えている。

《知のタペストリー》シリーズは、縦糸と横糸によって織りなされる知の世界を広く社会に紹介して、日本学術会議の社会的責任の一端を果たそうとするものである。

(2) 企画・編集・出版の形態と体制

想定する編集体制としては、岩波書店の『ジュニア新書』シリーズのなかに、日本学術会議・科学と社会委員会と『ジュニア新書』編集部が共同で《知のタペストリー》シリーズ編集委員会を構成して、企画と編集にあたるサブ・シリーズを創設する仕組みを考えている。各巻の企画と編集には、学術会議側の編集担当者を定めて、岩波『ジュニア新書』側の編集担当者による通常の編集手続きに加えて、査読の手続きを織り込むことにする。当然ながら、円滑・敏速な出版の妨げにならないように、この査読手続きは煩瑣な手続きを避けて、最初の読者としての助言の提供を旨とする。また、企画・編集・出版の全てにわたって、シリーズの刊行を支える責任は《知のタペストリー》シリーズ編集委員会が負うものとする。

この企画・編集・出版体制を選択する過程では、さまざまな新書シリーズや大型版の新シリーズをはじめとして、多様な出版形式を検討したのだが、以下のメリットを重視して、岩波『ジュニア新書』シリーズの内部にサブ・シリーズをスタートさせる形式を選択するに至ったものである。学術会議側に想定

されるメリットとしては、以下の3点が考えられる。

＊『ジュニア新書』シリーズはすでに610冊が出版されていて、中高生向けのシリーズ出版として、他の追随を許さない成功を収めている。広い普及を目指すための編集上のノウハウが編集部に蓄積されていて、販路も確保されている。学術会議にとって、提供する情報が広く安定的に普及する可能性は、大きなメリットであると思われる。

＊独自のシリーズを維持するためには、出版の頻度や規則性の点で、契約上の制約が多いと思われる。たとえば、学術会議シリーズ独自で、2年間に20冊などの制約のもとで継続出版することは、非常に負担が重く、実行可能性に多くの留保が付される懸念がある。このような独自シリーズの出版を引き受ける出版社を見いだすことは、おそらく至難の業だと思われる。これに対して、岩波『ジュニア新書』シリーズのなかにサブ・シリーズを編み込むプランであれば、オープンエンドで随時発行が可能となり、無理のない企画と編集を行うことができる。このようなサブ・シリーズを岩波『ジュニア新書』シリーズのなかに編み込む企画には先例——《日本の歴史シリーズ》・《小辞典シリーズ》——があり、出版社側には実行可能性の問題はないといわれている。

＊『ジュニア新書』シリーズには、判型やおおよそのページ数は決まっているものの、縦書きも横書きもあり、ビジュアルな造本もでき、場合によっては総カラーの出版も可能である。この出版形態の多様性は、学術会議側が提供する素材の多様性を念頭に置けば、非常に有用である筈である。

岩波『ジュニア新書』の編集部側も、このシリーズを編み込むことにメリットを認めて、非常に積極的な対応をしてきている。なによりも、人文学、社会科学、生命科学、医学、理学、工学という学術・科学・技術の全スペクトラムを高いレベルで包摂する日本学術会議が、潜在的な執筆者の供給源となるシリーズは、若い読者層に高い専門性を背景とする情報を継続的に提供する仕組みとして、『ジュニア新書』編集部にとって他をもっては替え難いメリットであると思われる。

（3）日本学術会議側の編集委員の素案

科学と社会委員会からは、これまで企画の具体化および岩波書店『ジュニア新書』編集長との予備的な交渉にあたってきたワーキング・グループの鷲谷会員（第2部）、岡部会員（第3部）、上野会員（第1部）および ex officio で鈴木委員長（副会長）が加わる形式を考えている。

岩波書店『ジュニア新書』編集部からは、森光実編集長を含めて、計3名の編集委員が加わる予定で考えている。

(4) 執筆者との契約および印税に関する取り決め

このような出版を日本学術会議が編集に加わって岩波書店が行うためには、日本学術会議の組織としての制約に配慮する必要がある。端的に言って、日本学術会議の《公務の一環》という位置付けを受ける出版であれば、執筆者に印税（原稿料）を支払うのであれば、学術会議から支払うことになる。日本学術会議の財政状況を考慮すれば、このことは事実上は印税（原稿料）を支払わないことになる可能性が高いと考えざるを得ない。このシリーズの継続的な出版に優れた研究者の貢献を求めるためには、この障碍は克服しておく必要がある。幸いにも、日本学術会議事務局から得た助言によれば、公務の一環にはあたらない形式で、出版社から執筆者に対して印税・原稿料を支払う契約を結ぶことは可能であると思われる。この点については、学術会議の組織外部に編集委員会などを設置して、原稿の執筆は編集委員会から依頼して、学術会議は監修などの立場で協力する形式はその一例である。その場合、出版契約はあくまで執筆者と出版社との間で締結されるため、印税・原稿料などの支払いに問題はない。この場合に、学術会議のプレゼンスを明示するためには、表紙と裏表紙のデザインを《知のタペストリー》シリーズ独自なものに統一して、日本学術会議の組織的な関与を明記する表現を入れることが考えられる。たとえば

日本学術会議監修：《知のタペストリー》シリーズ

という表現を統一的に入れること、全冊の最初のページに、このシリーズに込める日本学術会議のマニフェストを記すことなどが考えられる。

(5) 潜在的な執筆者に付いての考え方

日本学術会議の発意で企画を進めてきた出版であるので、潜在的な執筆者としては会員および連携会員を念頭においてはいるが、現在はいずれの資格も持っていないなくとも、これまでに会員ないし連携会員であった方々をも、企画次第では潜在的な執筆者に含めるのが適当であると思われる。

(以上)

7	
幹事会	7 2

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

日本放射線安全管理学会
 国際ジオシンセティックス学会日本支部
 日本イメージ心理学会
 国際文化表現学会
 日本K－A B Cアセスメント学会
 日本ソロー学会
 子どもと自然学会
 日本微生物学連盟

8	
幹事会	7 2

提 案

G 8 学術会議への会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 G 8 学術会議に以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 唐木英明（第二部会員）
土居範久（連携会員）
鯉沼秀臣（連携会員）
- 5 派遣期間 平成 2 1 年 3 月 2 6 日（木）～ 2 7 日（金）
- 6 派遣場所 ローマ（イタリア）
- 7 会議詳細は別紙参照

G8+5 Academies' Meeting

Rome, 26 - 27 March 2009

Tentative programme

Thursday, 26 March

9.30 Opening address(es)

Workshop 1 - New technologies for energy

10.00 (Brazilian Academy of Sciences) to be confirmed

10.15 YONGXIANG Lu (Chinese Academy of Sciences), *Opportunities and Challenges for Future Energy Choices*

10.30 Alexander M. BRADSHAW (German Academy of Sciences Leopoldina), *Nuclear fission and nuclear fusion*

10.45 (Indian National Science Academy), *Global partnership in energy technology research*

11.00 Sergio CARRÀ (Accademia Nazionale dei Lincei, Italy), *Making sense of chemistry in view of the incoming energy scenario*

11.15 Hideomi KOINUMA (Science Council of Japan), *Sahara solar breeder plan directed towards global clean energy super highway*

11.30 Coffee break

11.45 S. D. VARFOLOMEEV (Russian Academy of Sciences), *New generations of biofuels for sustainable development. Potential of Russia*

12.00 Roseanne DIAB (Academy of Sciences of South Africa), *Energy Challenges and Opportunities in Africa*

12.15 (Royal Society, United Kingdom) to be confirmed

12.30 (US National Academy of Sciences) to be confirmed

12.45 Conclusions

13.00 Lunch

Workshop 2 - International migration flows

- 15.00 (Brazilian Academy of Sciences) to be confirmed
- 15.15 Howard ALPER (Royal Society of Canada), *Chasing the Frontier of the Future: Brain Circulation and Mobility*
- 15.30 (German Academy of Sciences Leopoldina) to be confirmed
- 15.45 (Indian National Science Academy), *Migration flows: the challenges and opportunities in the knowledge economy*
- 16.00 Giuliano AMATO, ...
- 16.15 Massimo LIVI BACCI (Accademia Nazionale dei Lincei, Italy), ...
- 16.30 Coffee break
- 16.45 Mohamed H. A. HASSAN (NASAC), *NASAC Statement on Brain Drain and Brain Circulation*
- 17.00 V. A. TISHKOV (Russian Academy of Sciences), *Migration after the USSR and international cooperation*
- 17.15 Robin CREWE (Academy of Sciences of South Africa), *Migration in Sub-Saharan Africa*
- 17.30 (Royal Society, United Kingdom) to be confirmed
- 17.45 (US National Academy of Sciences) to be confirmed
- 18.00 Conclusions
- 20.00 Welcome dinner

Friday, 27 March

- 10.00 Round table discussions of the G8+5 Academies' 2009 joint statements

New technologies for energy

International migration flows

- 13.00 Lunch

- 14.30 Round table discussions of the G8+5 Academies' 2009 joint statements

Social event to be defined

Farewell dinner

ACCADEMIA NAZIONALE DEI LINCEI

ROME, PALAZZO CORSINI, VIA DELLA LUNGARA 10

9	
幹事会	7 2

提 案

平成 23 年度開催国際会議の共同主催候補について

- 1 提 案 者 会長
- 2 議 案 平成 23 年度開催国際会議の共同主催候補は、下記の 7 件とする。
- 3 提案理由 標記について、共同主催の申請があった平成 23 年度開催国際会議に関する国際委員会国際会議主催等検討分科会の審議に基づき、提案するものである。

記

- ・ 第 8 回比較生理生化学国際会議
- ・ 2011 年国際電気通信会議
- ・ 地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム 2011
- ・ 第 44 回万国外国科学会
- ・ 国際微生物学連合 2011 会議
- ・ CIGR（国際農業工学会）国際シンポジウム 2011 持続的生物生産
—水、エネルギー、食料—
- ・ ワールドスリープ 2011

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（共同主催の決定）

第 3 4 条 会長は、前条の審議結果に基づき、幹事会の議決を経て共同主催の候補を決定する。

2 会長は、共同主催の候補となった国際会議に関する予算措置をもって共同主催を決定し、その旨を申請者に通知するものとする。

内閣府日本学術会議[平成23年度共同主催国際会議候補一覧]

会議名		開催予定情報			
1	第8回比較生理生化学国際会議 8th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry (ICCPB2011JAPAN) ■母体団体: 比較生理生化学国際連合 (IUCPB: International Union of Comparative Physiology and Biochemistry) ■主催学会: 日本比較生理生化学会	参加人数	国外	250 同伴者	20
			国内	350 同伴者	15
			合計	600 合計	35
		国数	[26カ国/2地域]		
		会議内容	会議テーマ: 「21世紀における生物多様性との共生」 主要題目: 昆虫微小脳の世界、海洋微小動物の環境適応機構、など		
2	2011年国際電気通信会議 International Conference on Communications 2011 (ICC2011) ■母体団体: 電気電子学会通信ソサイエティ (IEEE Communications Society) ■主催学会: 社団法人 電子情報通信学会	参加人数	国外	800 同伴者	180
			国内	400 同伴者	20
			合計	1200 合計	200
		国数	[42カ国/1地域]		
		会議内容	会議テーマ: 「NGNとその先の世界へ (Open the door of NGN and beyond)」 主要題目: 次世代ネットワーク、光通信システム、など		
3	地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム 2011 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium (IGARSS 2011) ■母体団体: 米国電子通信学会 (IEEE: The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.) 地球科学及びリモートセンシング部会 ■主催学会: 社団法人 電子情報通信学会	参加人数	国外	700 同伴者	300
			国内	300 同伴者	50
			合計	1000 合計	350
		国数	[51カ国/2地域]		
		会議内容	会議テーマ: 「21世紀の地球を見守るリモートセンシング技術」 主要題目: リモートセンシングに関するレーダ、光学センサ、など		
4	第44回万国外科学会 44th World Congress of the International Society of Surgery ISS/SIC / International Surgical Week (ISW2011) ■母体団体: 万国外科学会 (ISS/SIC: International Society of Surgery (ISS), Societe Internationale de Chirurgie (SIC)) ■主催学会: 第44回万国外科学会 組織委員会	参加人数	国外	1000 同伴者	130
			国内	2000 同伴者	20
			合計	3000 合計	150
		国数	[66カ国/1地域]		
		会議内容	会議テーマ: 「外科学の未来を拓く」(予定) 主要題目: 未定		
5	国際微生物学連合2011会議 International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011 Congress) ■母体団体: 国際微生物学連合 (IUMS: International Union of Microbiological Societies) ■主催学会: 日本微生物学連盟	参加人数	国外	2000 同伴者	60
			国内	4000 同伴者	60
			合計	6000 合計	120
		国数	[82カ国/2地域]		
		会議内容	会議テーマ: 「The Unlimited World of Microbes、際限ない微生物の世界」 主要題目: 細菌学、応用微生物学、など		
6	CIGR(国際農業工学会)国際シンポジウム2011 持続的生物生産ー水、エネルギー、食料ー CIGR International Symposium 2011 on Sustainable Bioproduction — Water, Energy, and Food ■母体団体: 国際農業工学会 (CIGR, Commission Internationale du Genie Rural / The International Commission of Agricultural and Biosystems Engineering) ■主催学会: 日本農業工学会	参加人数	国外	150 同伴者	25
			国内	250 同伴者	25
			合計	400 合計	50
		国数	[34カ国/1地域]		
		会議内容	会議テーマ: 「持続的生物生産ー水、エネルギー、食料」 主要題目: 持続的生物生産のための農業生産環境の評価・解明・利用、人類に不可欠な安全・安心で高品質な食料生産の増強、など		
7	ワールドスリープ2011 The 6th World Congress of the World Sleep Federation (Worldsleep2011) ■母体団体: 世界睡眠連合 (WSF: World Sleep Federation) ■主催学会: 日本睡眠学会	参加人数	国外	900 同伴者	100
			国内	1600 同伴者	50
			合計	2500 合計	150
		国数	[49カ国/1地域]		
		会議内容	会議テーマ: 「New Horizons of Sleep Research for Our Planet」(地球環境における睡眠研究の新たな展望) 主要題目: 睡眠障害、ナルコレプシー、など		

10	
幹事会	72

提 案

公開シンポジウム「タバコの煙は愛する人を傷つける」

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
歯学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同
脱タバコ社会の実現分科会
2. 共 催 鶴見大学
財団法人国際口腔医療財団
3. 後 援 日本医歯薬アカデミー
4. 日 時 平成21年3月7日（土）14：30～16：30
5. 場 所 鶴見大学記念館ホール

6. 開催趣旨

脱タバコ社会の実現分科会は、平成20年（2008年）3月4日に要望「脱タバコ社会の実現に向けて」を提言いたしました。このことは、その後社会に大きな反響を呼び、世論啓発が、少しずつ行われているところです。その一環として超党派議員連盟から要請を受け、議員会館に赴き大野委員長、瀬戸副委員長が説明をいたしました。このときはタバコ増税論について諮問を受けました。

この度神奈川県では、受動喫煙防止条例案が知事より出され、神奈川県民の間で大いに盛り上がっているところです。日本学術会議脱タバコ社会の実現分科会に、神奈川県代表を招聘し学術の方面からこのことを支援することが、話しあわれました。そこで本シンポジウムを神奈川県において開催し、受動喫煙がいかに悪い影響を及ぼすか等市民公開で、議論したいと考えております。

7. プログラム

（1）コーディネーター

鶴見大学特命教授、日本学術会議連携会員

瀬戸 暎一

(2) 14:30～14:40

開会挨拶

大野 竜三

日本学術会議脱タバコ社会の実現分科会委員長

愛知県がんセンター名誉総長

(3) 演者・演題

① 14:40～15:00

・「人はなぜ死ぬのか？」

日本学術会議副会長・東京大学名誉教授

唐木 英明

② 15:00～15:20

・「タバコは最も殺人的麻薬である」

能率協会常任理事

西林 正知

③ 15:20～15:40

・「愛情卒煙のすすめ」

日本学術会議連携会員、鶴見大学歯学部特命教授

瀬戸 暁一

④ 15:40～16:00

・「受動喫煙防止条例の目指すもの」

神奈川県知事

松沢 成文

⑤ 16:00～16:20

全体討論

(4) 16:20～16:30 閉会挨拶

鶴見大学歯学部長

新井 高

8. 分科会の開催

当日、鶴見大学（横浜市）において、分科会を開催

9. 事前申込み・問い合わせ先

(1) 事前申込み・問い合わせ先は、鶴見大学瀬戸教授室

FAX 045-582-0459 / e-mail seto-k@tsurumi-u.ac.jp

(2) 席に余裕がある場合は当日受付有り

1 1	
幹事会	7 2

提 案

生体医工学フォーラム「スーパー特区で加速する最先端医療技術」の開催について

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会 生体医工学分科会
2. 共 催 日本生体医工学学会
3. 日 時 平成21年3月11日（水） 10:00～17:00
4. 場 所 東京大学山上会館（東京都文京区本郷 7-3-1）

5. 開催趣旨

22 世紀につながる学術研究と教育には異分野間の交流と融合によって新しい分野を開拓することが必要である。本フォーラム「スーパー特区で加速する最先端医療技術」は異分野融合、医工連携、産学官連携を推進して我が国の生体医工学のさらなる発展を図ることを目的としている。

6. 次 第

○午前部 （10:00-11:45）

開会の挨拶 梶谷 文彦（川崎医科大学名誉教授、日本学術会議連携会員）

司 会 土肥 健純（日本学術会議連携会員、東京大学工学系研究科教授）

講 演

（1）循環器疾患における情報型治療システム開発

砂川賢二（九州大学医学研究院教授、日本学術会議連携会員）

（2）イメージング技術が拓く革新的医療機器創出プロジェクト
－ 超早期診断から最先端治療まで －

平岡真寛（京都医学系研究科教授）

（3）先進的外科系インプラントとしての3次元複合再生組織製品の早期普及を目指した開発プロジェクト

高戸 毅（日本学術会議会員、東京大学医学系研究科教授）

○午後の部 前半 (13:00-14:45)

司 会 楠岡英雄 (大阪医療センター院長、日本生体医工学学会長
日本学術会議連携会員)

講 演

- (4) 先端放射線治療技術パッケージングによるミニマムリスク放射線治療機器開発

白土博樹 (北海道大学医学系研究科教授)

- (5) 急性脳梗塞早期系統的治療のための分野横断的診断治療統合化低侵襲システムの開発

古幡 博 (東京慈恵医科大学教授)

- (6) 生体融合を可能とする人工関節の患者別受注生産モデルの構築

蔵本孝一 (ナカシマプロペラ株式会社)

○午後の部 後半 (15:00-16:45)

司 会 倉智嘉久 (大阪大学医学系研究科教授、日本学術会議連携会員)

講 演

- (7) わが国における先端医療技術開発の推進に向けた取組
重藤和弘 (内閣府 科学技術政策担当 参事官)

- (8) ライフサイエンス分野の動向と文部科学省の取り組み
倉崎高明 (文部科学省研究振興局研究振興戦略官)

- (9) ライフサイエンス分野の動向と厚生労働省の取組み
千村 浩 (厚生労働省 医政局研究開発振興課長)

- (10) 経済産業省における医療機器研究開発について
増永 明 (経済産業省 医療・福祉機器産業室長)

閉会の挨拶 加藤 紘 (山口大学名誉教授、日本学術会議連携会員)

7. 分科会の開催について

同日、生体医工学分科会を開催予定

8. 申込み・お問い合わせについて

事前申し込みは必要ありません。連絡先は
東京大学医学系研究科医用生体工学講座システム生理学
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
Tel:03-5841-3659 E-mail: bme@m.u-tokyo.ac.jp

1 2	
幹事会	7 2

提 案

シンポジウム「遺棄および老朽化学兵器の爆発リスク及び爆破処理技術の安全性」の開催
について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記学術講演会を下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催 化学工学会、安全工学会、火薬学会、
アメリカ機械学会 (American Society of Mechanical Engineers / ASME)
3. 協 賛 日本機械学会
4. 日 時 平成 21 年 3 月 23 日 (月) 14 : 00～17 : 30
5. 場 所 日本学術会議 6-C(1,2)会議室

6. 開催趣旨

今回のシンポジウムでは、化学弾の取り扱い及び廃棄処理の候補技術として有望視されている爆破処理に関しての爆発リスクとその低減について内外の専門家により議論することを目的とする。

特に ASME は世界に先駆け昨年「衝撃荷重を受ける容器」の設計コードを世に出した。今回、設計コードの必要性及びその内容など、リスクの低減に関する海外の最新動向などもテーマに加え ASME との共催とする。

7. 次 第

開会あいさつ：古崎新太郎（東京大学名誉教授、日本学術会議連携会員）

I 講 演（14 : 00～17 : 00）（題名及び講演者は予定）

- 1) 「中国プロジェクトの現状と爆破処理技術の適用」(内閣府遺棄化学兵器処理担当室)
- 2) 「ASME Code Case 2564 (衝撃を受ける圧力容器設計基準) 制定の背景と必要性」(ASME、Dr. R. Nickell)
- 3) 「Code Case 2564 (衝撃を受ける圧力容器設計基準) の概要」(ASME、Dr. E. A. Rodriguez)
- 4) 「爆発時の爆風及び飛散物による被害の軽減対策」(独) 産業技術総合研究所安全科学研究部門爆発安全研究コア、久保田士郎)
- 5) 「ガス爆発の事例と安全性 (財) 安全工学会)
- 6) 「制御爆破システム ―その実績と今後の課題」(Royal Military Academy of Belgium、Prof. M. Lefebvre)

II 総合討論 (17:00～17:30)

閉会あいさつ： 水野光一 (独) 産業技術総合研究所環境管理技術研究部門研究顧問

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項(氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス)をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

(株)神戸製鋼所 CWDプロジェクト部 主監 朝比奈 潔

E-mail: asahina.kiyoshi@kobelco.com Fax: 078-261-7052

1 3	
幹事会	72

提 案

公開シンポジウム

「福祉職・介護職の専門性と社会的地位を高めるために」の開催について

- 1 提案者 社会学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 社会学委員会福祉職・介護職育成分科会
2. 後 援 日本社会福祉系学会連合
3. 日 時 平成21年3月28日(土) 13:00～15:00
4. 場 所 東洋大学 白山キャンパス 6101教室(東京都文京区白山5-28-20)
5. 分科会の開催 同日に開催予定
6. 次 第

開催趣旨

福祉職・介護職の専門性を高め、同時に社会的地位を高めるためにはどのような対応が必要かについて議論をする。現在、介護職の離職率が高く、いかに魅力のある専門職に育てていくのが課題となっている。一方、福祉職にあっても、いかに専門性を高め、キャリアパスが形成され、社会的評価を高めていくのかについての課題がある。こうしたことについて、実践現場からの発言をもとに、あるべき方向を模索することにある。

開会あいさつ：福祉職・介護職育成分科会委員長 白澤政和
(大阪市立大学大学院教授、日本学術会議会員)

I シンポジウム

コーディネーター

上野谷加代子(同志社大学教授、日本学術会議連携会員)

シンポジスト

- 1) 因 利恵(日本ホームヘルパー協会会長、日本介護福祉士会常任理事)
- 2) 住居広士(県立広島大学教授、日本学術会議連携会員)
- 3) 谷口光治(障害者地域生活支援サービス ゆうき相談所所長、(社)日本社会福祉士会副会長)
- 4) 西元幸雄(社会福祉法人青山里会副理事長、第二小山田特別養護老人ホーム施設長)

コメンテーター

白澤政和（大阪市立大学大学院教授、日本学術会議会員）

閉会あいさつ：福祉職・介護職育成分科会副委員長 古川孝順

（東洋大学教授、日本学術会議連携会員）

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、以下にお申し込みください。

日本社会福祉学会事務局 担当：鈴木

E-mail: jsssw@jt2.so-net.ne.jp Fax: 03-3356-7820

＊ 定員（300名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

1 4	
幹事会	7 2

提 案

IGBP(地球圏－生物圏国際協同研究計画)学術講演会の開催について

1. 提案者 地球惑星科学委員会委員長

2. 議 案 標記学術講演会を下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会 IGBP・WCRP 合同分科会

2. 共 催 地球圏－生物圏国際協同研究計画、北海道大学

3. 日 時 平成21年4月14日(火) および4月18日(土)

4. 場 所 グランドパーク小樽 (4月14日)
(北海道小樽市築港11番3)
北海道大学学術交流会館 (4月18日)
(北海道札幌市北区北8条西5丁目)

5. 次 第

(1) 開催趣旨

IGBPは国際科学会議のもとで1986年より実施されている国際共同研究計画であり、現在進行している地球システムの変化を支配している物理学的・化学的・生物学的プロセスの相互作用を学際的に解明することを目的としている。日本学術会議は我が国におけるIGBPの実施・推進に向けて二回の勧告を行ない、日本側対応機関としてIGBPに積極的に参画・貢献してきた。第20期以降については、環境学委員会と地球惑星科学委員会が合同で、IGBP・WCRP分科会を組織し、国内での実施・推進にあたっている。

日本では、すでに平成11年5月に第2回IGBPコンgressを湘南国際村に招致した経験を持つが、IGBP事務局(スウェーデン王立科学協会)の要請を受けて、平成21年4月14～18日に、第24回IGBP科学委員会を開催することになった。IGBP科学委員会は、IGBPのコアプロジェクトの立案、実施の指導、結果の公表とともに、参加各国機関・組織との活動調整を任務としている。そのため同委員会の一環として、日本学術会議の主催により、4月14日にはIGBP科学委員会に日本を中心とする活動を紹介する国際シンポジウムを、

同 18 日にはIGBP議長・副議長・事務局長・科学委員を含む中核メンバーによる公開講演会を、IGBPおよび地元ホストを務める北海道大学との共催で開催することを提案する。

(2) 開催概要

IGBP国際シンポジウム(4月14日)

「東アジア域の環境変化：統合研究の最前線」(8 話題提供、英語)

日本の研究者が中核的な役割を果たしている、東アジア～全球を対象とした、IGBP に関係した統合型の地球環境研究の最前線を紹介する。

IGBP国際講演会(4月18日)

「持続的将来に向けた地球システム科学」(6 講演、同時通訳)

学生・一般市民を対象として、地球変化の予測と人間社会の適応に関する統合的な研究について俯瞰的に解説する。

1 5	
幹事会	7 2

提 案

「第 23 回環境工学連合講演会」の開催について

1. 提案者 土木工学・建築学委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共 催 化学工学会、環境科学会、環境資源工学会、空気調和・衛生工学会、高分子学会、資源・素材学会、地盤工学会、静電気学会、大気環境学会、土木学会、日本化学会、日本機械学会、日本建築学会、日本水道協会、日本セラミックス協会、日本太陽エネルギー学会、日本鉄鋼協会、日本土壌肥料学会、日本分析化学会、日本水環境学会、日本リスク研究学会、日本冷凍空調学会、廃棄物学会
3. 日 時 平成 21 年 4 月 16 日（木）～17 日（金）
4. 場 所 日本学術会議 講堂
5. 次 第

総合テーマ「再生・再利用技術と循環型社会」

●第 1 日目（4 月 16 日）

(1)開会（9:10～9:15）

開会挨拶： 浦野 紘平（日本学術会議連携会員／横浜国立大学）

(2)廃棄物からの資源・エネルギー回収（9:15～12:15）

司会：山崎 章弘（化学工学会／成蹊大学）

1-01 廃棄物系バイオマスからの次世代型エネルギー回収技術と循環型社会形成

川本 克也（環境科学会／(独) 国立環境研究所）

1-02 下水や廃棄物を中心とするリンの循環と再資源化

高岡 昌輝（土木学会／京都大学）

1-03 植物による資源回収の可能性

西岡 洋（日本分析化学会／兵庫県立大学）

1-04 二酸化炭素を用いた廃コンクリートのリサイクル技術

柳沢 幸雄（大気環境学会／東京大学）

- 1-05 原子燃料サイクルにおける物質利用新戦略
竹下 健二 (化学工学会／東京工業大学)
- 1-06 レアメタルリサイクルのための人工鉱床計画
白鳥 寿一 (資源・素材学会／東北大学)

(3) 特別講演 (13:30～14:30)

- 司会：常田 聡 (日本水環境学会／早稲田大学)
- 1-07 サステナビリティ学と共生学，持続可能な社会実現への条件
松尾 友矩 (東洋大学)

(4) 循環型社会に向けたシステム解析 (14:45～17:45)

- 司会：常田 聡 (日本水環境学会／早稲田大学)
- 1-08 LCA からみた循環型社会
小野田弘士 (日本機械学会／早稲田大学)
- 1-09 モンゴル小村の物質フローと廃棄物処理システム
後藤 尚弘 (日本リスク研究学会／豊橋技術科学大学)
- 1-10 農林生態系複合流域における窒素循環の河川水質へのインパクト
波多野隆介 (日本土壌肥料学会／北海道大学)
- 1-11 森林の新しい価値 ～物質，エネルギーの持続的な流れをつくる～
船岡 正光 (高分子学会／三重大学)
- 1-12 廃棄物循環処理システムにおける課題と展望
松藤 敏彦 (廃棄物学会／北海道大学)
- 1-13 建築物における循環系用途水の衛生管理の現状と課題
野知 啓子 (空気調和・衛生工学会／関東学院大学)

● 第2日目 (4月17日)

(5) エネルギー・水を再生する新しい技術 (9:00～12:00)

- 司会：中島 淳 (日本水環境学会／立命館大学)
- 2-01 ヒートポンプ技術による熱再生技術の新展開
田中耕太郎 (日本太陽エネルギー学会／芝浦工業大学)
- 2-02 冷凍サイクルにおけるエネルギー再生技術
福田 充宏 (日本冷凍空調学会／静岡大学)
- 2-03 建築における雨水利用システム規格の作成
神谷 博 (日本建築学会／榊設計計画水系デザイン研究室)
- 2-04 水道分野における環境負荷低減への取り組み
古米 弘明 (日本水道協会／東京大学)
- 2-05 膜分離活性汚泥法の現状と展望
糸川 浩紀 (日本水環境学会／日本下水道事業団)
- 2-06 プラズマによる水環境修復
佐藤 正之 (静電気学会／群馬大学名誉教授)

(6) 特別講演 (13:00～14:00)

- 司会：中島 淳 (日本水環境学会／立命館大学)
- 2-07 循環型社会と廃棄物マネジメント
田中 勝 (鳥取環境大学)

(7) 建設・化学産業における環境調和型技術 (14:15～17:45)

司会：古米 弘明 (日本水道協会／東京大学)

2-08 建築におけるバイオマスの利活用

浅野 良晴 (日本建築学会／信州大学)

2-09 建築分野における再利用の実態と支援策

間宮 尚 (空気調和・衛生工学会／鹿島技術研究所)

2-10 港湾工事における副産物の地盤工学的利用と海面処分場の高度利用について

菊池 喜昭 (地盤工学会／(独)港湾空港技術研究所)

2-11 板硝子協会の建築用機能ガラス建材のリサイクル活動

工藤 透 (日本セラミックス協会／AGC 旭硝子㈱)

2-12 PCB、ダイオキシン等残留性有機化合物汚染物の無害化处理

川井 隆夫 (環境資源工学会／㈱神鋼環境ソリューション)

2-13 環境に調和した化学品製造プロセスのための触媒開発

辰巳 敬 (日本化学会／東京工業大学)

2-14 プラスチックのフィードストックリサイクルとトランスファーテクノロジー

吉岡 敏明 (日本鉄鋼協会／東北大学)

(8) 閉会 (17:45～17:50)

閉会挨拶：中島 淳 (第 23 回環境工学連合講演会運営委員長／立命館大学)

1 6	
幹事会	7 2

提 案

第 55 回構造工学シンポジウムの開催

1. 提案者 土木工学・建築学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議土木工学・建築学委員会、日本建築学会、土木学会
2. 日 時 平成 2 1 年 4 月 2 3 日（木）～ 2 4 日（金）
3. 場 所 日本学術会議講堂及び会議室
4. 議事次第

○ 4 月 2 3 日

9 : 1 5 ～ 1 4 : 5 5

土木工学部門、建築学部門各講演

1 5 : 1 5 ～ 1 6 : 1 5

特別講演会

講師：藤野 陽三（東京大学）

題目：「都市基盤の災害事故リスクの低減とセンシング」

司会：山口 栄輝（九州工業大学，土木学会構造工学論文集編集小委員会委員長）

1 6 : 2 5 ～ 1 8 : 1 5

土木・建築合同パネルディスカッション「モニタリングが開く構造工学の可能性」

挨拶：山田 聖志（豊橋技術科学大学，日本建築学会構造工学論文集編集小委員会主査）

趣旨説明：藤野 陽三（東京大学）

パネリスト：薛 松濤（近畿大学）、小国 健二（東京大学）、倉田 成人（鹿島建設）、島村 誠（JR 東日本）

司会：穴見 健吾（芝浦工業大学，土木学会構造工学論文集小委員会幹事長）

田村 修次（京都大学，日本建築学会構造工学論文集編集小委員会幹事）

○ 4 月 2 4 日

9 : 3 0 ～ 1 5 : 5 0

土木工学部門、建築学部門各講演

1 7	
幹事会	7 2

提 案

シンポジウム「ユビキタス空間情報社会基盤の構築」の開催について

1. 提案者 情報学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 情報学委員会ユビキタス空間情報社会基盤分科会
2. 後 援 東京大学大学院情報学環（予定）
3. 日 時 平成22年 4月22日（水）13：30～17：00
4. 場 所 東京大学 本郷キャンパス（文京区本郷7-3-1）
医学部鉄門記念講堂（医学部教育研究棟14階）
(http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_02_09_j.html)
5. 次 第

■開催趣旨

ユビキタスコンピューティングとは、遍在的にコンピュータ要素を環境中に組み込むことによって、いつでも、どこでも、誰でもがコンピュータの情報処理能力が利用できるようにする技術体系であり、それによって目指すのは、その時、その場、その人に適した最適化サービスの提供である。このように実世界と情報世界が一体となるユビキタスコンピューティング環境の実現は、技術的にはすぐそこに見えているといえる。しかし、応用や組織を超えた実世界と情報世界の一体化には、単なる技術面の開発だけでは不十分であり、情報の識別や関連付けの仕組みに関する社会的な合意（標準化と関連制度設計、さらには実際の環境整備）、まさに社会インフラ化、が不可欠である。以上の点をふまえ、本分科会では、社会イノベーション基盤「ユビキタス時空間情報社会基盤」の構築を目的として、その現状と将来への課題について広く議論を行うため、分科会シンポジウムを開催する。

■プログラム（予定）

13:00	開	場	
13:30-13:40	開会挨拶	坂村 健	（東京大学教授、日本学術会議会員）
13:40-14:00	講演 1	岡部篤行	（青山学院大学教授、日本学術会議会員）
14:00-14:20	講演 2	坂村 健	（東京大学教授、日本学術会議会員）
14:20-14:40	講演 3	碓井照子	（奈良大学教授、日本学術会議会員）
14:40-15:00	講演 4	森田 喬	（法政大学教授、日本学術会議連携会員）
15:00-15:20	講演 5	柴崎亮介	（東京大学教授、日本学術会議連携会員）
15:20-15:40	休	憩	
15:40-17:00	パネルディスカッション		
	〈パネリスト〉		
		坂村 健	（東京大学教授、日本学術会議会員）
		碓井照子	（奈良大学教授、日本学術会議会員）
		森田 喬	（法政大学教授、日本学術会議連携会員）
		柴崎亮介	（東京大学教授、日本学術会議連携会員）
		萩田紀博	（ATR 知能ロボティクス研究所所長、日本学術会議連携会員）
17:00	閉会挨拶		

■参加申込方法

本シンポジウムの情報は学術会議の該当ウェブページに掲載します。

詳細な情報については、E-mailにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、以下の担当までお申し込みください。

- ・担当：東京大学大学院情報学環 石川 徹
- ・E-mail: ishikawa[at]csis.u-tokyo.ac.jp

1 8	
幹事会	7 2

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付託先
日本土壤微生物学会シンポジウム ①主催：日本土壤微生物学会 ②期間：平成 21 年 6 月 12～13 日 ③場所：九州大学	日本土壤微生物学会長	第二部
第 20 回アジア太平洋癌学会 ①主催：アジア太平洋癌学会 ②期間：平成 21 年 11 月 12～14 日 ③場所：筑波国際会議場	第 20 回アジア太平洋癌学会 会長	第二部

参考 1

お 知 ら せ

平成21年2月3日

会員・連携会員の皆様へ

日本学術会議事務局管理課

この度、日本学術会議庁舎の耐震工事が下記のとおり行われることとなりましたので、お知らせいたします。

工事期間中は会員等の皆様にご不便をおかけすることになりますが、ご協力方よろしくをお願いいたします。

なお、駐車スペースが資材置き場等になりますので、車での来庁は硬くお断りいたします（敷地内は駐車できません）。

（下記の内容は、現段階での見込みで、工事の進捗状況によって変更があり得ます。その際は適宜お知らせいたします。）

記

1 工事期間 平成21年2月7日～平成21年9月30日

2 工事区間

(1) 第1工程 1階受付廻り工事（平成21年2月7日～3月末日まで）

- ・1階受付廻りの工事を開始いたしますので、乃木坂駅に近い「関係者入口」は、使用できなくなります。会員等の皆様には「正面玄関入口」から出入りしていただくこととなりますので、ご注意願います。

(2) 第2工程 西側階段（男子トイレ側）工事（平成21年4月初旬～6月末まで）

- ・西側の階段が使用できなくなり、東側の階段を使用していただくこととなりますので、ご注意願います。

(3) 第3工程 東側階段（女子トイレ側）工事（平成21年7月初旬～9月末まで）

- ・東側の階段が使用できなくなり、西側の階段を使用していただくこととなりますので、ご注意願います。

※① 第2工程及び第3工程の工事期間中は、「正面玄関入口」が使用できなくなりますので、会員等の皆様は乃木坂駅に近い「関係者入口」を使用していただくこととなります。

② 工事している階段側のトイレが使用できなくなることから、各階のトイレを交互に男子、女子と分ける予定ですので、ご注意願います。

③ エレベーターについては、通常どおり使用できますが、2基のうち1基は資材等運搬のため、内装を保護して使用することとなります。

(4) 第4工程 1階講堂廻り工事（平成21年7月初旬～9月末まで）

- ・講堂入口の扉改修等の工事が行われる予定です。